## 旧大乗院庭園の調査（平城第 374 次）

興福寺から南に下り、奈良ホテルの建つ朝香山の南麓に、旧大乗院庭園があります。大乗院は、一条院と並ぶ興福寺の門跡寺院で、室町時代・宝徳3年(1451)の徳政一揆で焼亡した後に、尋尊によって復興されました。その庭園は、江戸時代末まで南都随一の名園と謳(うた)われました。

1995 年からの継続的な調査によって、現在庭園の中心に位置する東大池の西方に、西小池の存在が確認されました。今回の調査は、西小池の中央部と想定される部分と、東大池の西南隅を対象としています。調査は7月 26 日から開始し、現在も継続中です。

このうち西小池の調査では、想定とほぼ同じ位置で、西小池中央部の東西岸の汀線と、「ヲシマ」と呼ばれる池の中島、またその南西に位置する小島を検出しています。興福寺所蔵『大乗院四季真景図』で、これらは「連(つらな)リハシ」によって結ばれて描かれており、今後の調査でその全貌が現れるものと思われます。

東大池西南隅部は、昨年秋におこなわれた調査の追加調査です。前回、近世の岸の下層で部分的に検出した入り江状に広がる洲浜の確認を目的としています。大乗院庭園のあるこの地は、平安時代は元興寺の別院・禅定院であったことが知られていますが、出土遺物によりこの洲浜が禅定院時代の遺構である可能性が指摘されています。今回の調査で、さらなる成果が期待されます。

残暑のなか、発掘調査は10月下旬まで継続する予定です。

（平城宮跡発掘調査部　大林　潤）

調査区西半（北東から）